



8

つてさへおれは病人が愛いことはできぬものな。
飾りやう

光子 おおたはいつで山えんさ、ことさ。
下手な

秀作 かしは死ぬまじい人さ (かつが座を笑へ)

かつが お母さん。甘勝川が見えりしたよ。今

濱の旦那やと話しとぬさう。

光子 甘勝川か……

秀作 光子ッ、(いどく咳をする。若しさうに

縁端に坐つてしす) (二人して秀作を病床の上へ運ぶ)

光子 あさう冷えあすうたんせう。かつが

注射の箱を取つてくれ。

かつが お父さん……お父さん……痛みますか。

光子 (秀作の肩甲を腹おせて) 可哀想に其母

どう注射の針を立てる場所をおい。

かつが 長い向の注射でうらねえ。

(病人は夢中におつて呻く。)

光子 えれこれ一日も早く濱の新ら

しい家に引越してお父さん玉切すませて上

げたい。この春かぢおれはこ楽しみにしてか

いでんおさんおらう。

かつが 甘勝川は何時にふたぢ取へてくれ

MARUZEN

